

# 木曾山林高校の森林PRの取り組みについて

長野県木曾山林高等学校 林業科 2年 ○長島 洋介  
小澤 由幸

## 要 旨

森林が生産現場から環境林へと移行する中で、森林や林業に理解を深めていただこうと木曾山林高校林業科ではいくつかの森林PRの活動に取り組んでいます。それは、森林関係のイベント参加であったり、森林教室や各種ボランティア活動、学会発表などの発表や研究活動です。

私達はこれらの活動を通じて、確かなPRの成果があつたと考え、更に自己研鑽もできていると感じています。

## はじめに

近年、林業が低迷している中で森林に対するソフト的なニーズは今までになく増えているのが現状です。そのような状況の中で、私たち木曾山林高校生は学校で林業について学びながら、各地で行われているイベントに参加させていただいたり、自分達で企画・運営をして活動を行っています。ここでは、わずかではありますがその一端を紹介します。

## 1 本校の概要

私達の通う木曾山林高校は、1901年地元木曾福島町の要請を受け、全国でははじめての林業の専門高校として開校された学校であり、来年で開校100周年を迎えるという伝統校でもあります。しかしそんな伝統がある学校ですが、生徒数は年々減少の兆しを強めております。

現在、1学年林業科2クラス・インテリア科1クラスで3学年合わせても300人あまりの小さな学校です。



写真-1 木曾山林高校

## 2 活動の概要

限られた時間の中、林業科では様々な校内・外での活動に積極的に参加しています。学校での学習活動のほかに、森林PR活動は特に特色のあるものです。それはイベントに参加したり、ボランティア活動を行ったり、生徒が先生になって進める親林教室、研究活動やその発表会などがあげられ、林業科として誇りをもって森をPRしています。そんな活動の中でまずあげられるものに森林教室があります。

## 3 森林教室

「森林教室」というのは、本校にある農業クラブが中心になって企画・運営を行っている活動で、

地元の子供から年輩の人まで誰もが参加できるとても親しみのある会です。例年は山にある身近な葉や石などを使って、いろんなゲームをするネイチャーゲームや炭作りを行って来ました。しかし、今年は地元だけでなく都会の人にも自然を知ってもらおうということで、東京都世田谷区にあるアンテナショップをお借りして「森林教室 in 世田谷」を開催しました。ここでは、ほうば巻き作りや炭の電池作りなどを体験してもらったりしました。私達も、今までとは違う環境でこのような会を開けたのでとてもいい経験ができました。



写真-2 森林教室 in 東京

#### 4 都会でのPR

また、本校では、毎年5月の終わりに東京代々木公園で開かれる、林野庁主催の「森林の市（もりのいち）」に参加しています。



写真-3 森林の市

「森林の市」では、木曾の名産品である、キノコ・炭・木曾の美味しい水などの販売を行う中、レディーズネットワークという方々が中心になって毎年やっているステージ発表に参加させていただいて、都会の人に森林の恵みを販売しました。2日間というわずかな販売期間でしたが、都会の人達に山に暮らす人、そして山を愛する人の気持ちは十分に伝えられたと思います。

また、森林教室のときにもふれたアンテナショップでもきのこや炭の販売をしました。アンテナショップは、木曾山林高校がアンテナショップ設立のときに協力をして、店で使われているひのきの木はほとんどが本校がアンテナショップに提供したもので使っています。世田谷の住民の方に常に本校や森林に親しんでいただいております。

#### 5 ボランティア・イベント参加

また私達は地元でも様々なボランティア活動やイベントに参加しています。ボランティア活動としては高山市乗鞍青年の家で行われた、「乗鞍探訪と林業体験」に参加すると同時に指導なども行いました。山での活動も行っており、地元の森林組合に紹介していただいた私有林を、土・日を利用して間伐をしてあげたり、山岳同好会が中



写真-4 木曾駒ヶ岳へ看板設置

心になって行つてやっていることですが、木曾駒ヶ岳のコマクサ保護として看板設置を行っています。他には、本曾養護学校へ定期的に訪れて、食事会やゲームをやつて交流を深めていったりという活動を続けています。

また、地元との交流も深めようということで、10月の終わり頃に木曾福島町で開催された「飛躍笑一気祭り」に参加して、本校の文化祭で行われた「全国専門高校物産展」でも販売したジャム・お茶、私達の作った炭など売り、地元の人に少しでも木曾山林高校をアピールできたと思います。

そして、私たちが参加していないのであまりわかりませんが、環境シンポジウムという催しも行われ、先輩が参加して発表を行いました。

学校全体としては、毎年「ひのき祭」という文化祭を行っています。内容については回数を重ねるごとに充実したものとなり、昨年では、TBS系「筋肉番付」の“だるま7”に出場して、120万円あまりも賞金を獲得して大盛況となり、今年は各地区からいらなくなった物品を回収してそれを売る「バザールでござーる」で長蛇の列ができるほどの来校者も1000人を突破するというすごい文化祭をやっています。そしてそのなかでも私達は森林・林業のPRもやっています。

## 6 研究・発表活動

また私達の活動は、発表も行っています。その中でも日本林学会に参加できたことはとても大きかったと思います。日本林学会とは、大学生や大学教授、試験研究機関の方々の集まり、一言でいえば「偉い人」の発表の場なのですが、昨年そのような大会に木曾山林高校が参加できるということで、今までやってきた研究を発表しました。普段、農業クラブ県大会など大会で発表に慣れていた私達ですが、この時ばかりはいつもと違う緊張感を味わえて、新しい経験ができました。

また、農業クラブの県大会でも森林PRなどの発表をし、意見発表の部で最優秀賞を受賞したり、他の部門でも毎年のように優秀賞を獲るなど高い評価を得ています。

今まで木曾山林高校では様々な研究を行ってきました。そのなかでも特に力を入れてきたものに「間伐材の有効利用」というものがあります。間伐材というのは、極端に安値で、ほとんどのものが利用されておらず、人件費や運材費が高いことが利用の難しい問題になっています。そこで、数年前からこの間伐材に目をつけ、半割丸太材や、針葉樹枝材製炭、ひのきのおがくずの利用などの研究を行い「立木染色」という技術を利用したり、

「LVL」といわれる単板積層材をつくり強度試験をしたり、インテリア用品の製作、パーティクルボードの製作など、様々な方向や考え方で研究をしてきました。しかし、まだまだ実用性のあるものは沢山あると思います。よりよい活用法を、これからも先輩方の意志を引き継いで研究していきたいです。

また、ひのきの枝材や竹で炭を作ったり、簡単に炭を作れる方法を研究したり、キノコ培養をしたりなど他にも様々な研究を行っています。



写真-5 実験風景

## おわりに

このように私達は様々な活動をしてきたわけですが、一般の方々に広く森林や林業、そして林業高校について興味を持っていただけたと感じています。そしてPR活動を通じて、私たち自身が幅広い貴重な体験ができ、林業に対する興味もまた前より増したように感じます。今後もこのような活動を引き続き行っていくとともに、さらに幅広い視野で地域や都会の人々との交流を深めていきたいです。研究についても今まで以上に内容の濃い課題内容に取り組んでいきたいです。

あとわずかで開校100周年を迎える木曾山林高校、その100年という中で今のこの私達の活動はほんのわずかかもしれませんが、このくぎりの年をきっかけに、もっと木曾山林高校のこと、そして木曾の山・森・川・暮らしや文化のことをもっと多くの人にアピールし、そしてこの木曾の地を愛してもらえるように、これからも取り組みを続けていきたいと考えています。